広陵町教育委員会だより

令和7年度　10月号　10月9日発行
広陵町教育委員会
北葛城郡広陵町笠161番地2
TEL0745－43－6180　文責・編集　植村

春日山　おして照らせる　この月は
妹が庭にも　さやけくありけり

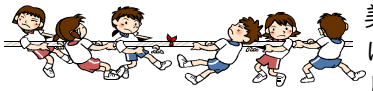
万葉集　巻7－1074　作者未詳

春日山一帯をあまねく照らしているこの月　いとしいあの子の家の庭にも　さやかに照り輝いていたなぁ

オモロー授業に参加して！

10月に入りようやく暑さが少し和らぎ、朝夕はずいぶん涼しくなってきました。あちらこちらの家の庭からは町の木であるキンモクセイの芳しい花の香が秋風にのって漂う好季節を迎えています。周辺の田んぼでは、黄金色に色づいた稲穂がたわわに実り、稲刈りももうすぐ始まろうとしています。

学校園では、2学期で一番大きな行事である運動会・体育大会に向けた練習が始まっています。11日(土)には、東・真美一・真美二の幼稚園、畿央大附属広陵こども園の0～2歳児が、22日(水)には、広陵中学校・真美ケ丘中学校が、25日(土)には、5つの小学校が、そして11月1日(土)には、北かぐやこども園で開催されます。子どもたち一人一人がこれまでに練習等で培ってきた力を自分のため、チームのために精一杯発揮してほしいと思うとともに,一途にがんばっている姿をぜひ皆さんに見ていただきたいと思います。



ところで、先日の9月23日(火)にはしお元気村で、「広陵町から日本の教育を作ろう！　『子どもの**可能性**に**火**をつけろ!』～学校と地域が化学反応を起こすとき～」というタイトルでオモロー授業発表会（奈良から教育を考える会主催、広陵町教育委員会後援）がありました。「オモロー授業発表会」は2023年に活動を始められ、「教育の本丸は公立学校にあり、必ず夢見る先生がいる」という信念のもと、住民の力で日本の教育を楽しくアップデートしようと、全国各地で開催されているようです。また、多様な子どもたちがそれぞれの居場所となる学校づくりや、子どもたちにとって魅力あるよりよい教育の実践に向けて、教員・保護者・地域住民らの意識を高め、子どもたちも交えて一緒に考える取組として展開されています。地域の保護者らが主催し、公立学校の教員らが登壇し、授業実践を報告されています。

県内では、天理市や生駒市でもこのような発表会がされていて、今回、広陵町で開催されることになり、私もこの会に参加させてもらって、5人の先生方の実践報告を聞くとともに、トークセッションに参加させていただきました。

発表会では、はじめに公立保育園のスーパー保育士であるおさむらいせんせいの「みんなでつくる保育の場を目指して」というタイトルで、保育の使命の一つとして、子どもたちに本物を見せることや親（保護者）を支えることを通して、親も子どもも育ち合う親子園のお話がありました。

続いて、小学校教頭の伊藤先生が「プロジェクト型学習で思いっきり遊ぼう」というタイトルで、行動できる子どもを育てることを目的とした取組を話されました。　地域の方々と子どもたちが地域の特産物である大和茶を使ったお茶クッキーなどを考案してカフェを開いたり、地域のトマトを使ってピザを焼いたりして、地域の人とつながるプロジェクト学習について熱く語っておられました。

次の発表は、「あの名曲は通級だった」というタイトルで、公立中学校の通級指導教室担当の藤田先生からでした。「アナと雪の女王」の名曲「レット・イット・ゴーありのままで」の歌詞のフレーズが通級指導における子どもたち一人一人の自立活動と寄り添い方を示している。そして、一人の生徒の特性に気づき、その改善に対して周囲の協力も得て、課題の克服と成績向上につながった事例を話されていました。

続いて、元公立中学校・高校の森戸先生は、「子育てと教育にコーチングを！　コーチングってなあに?」というタイトルで、まずは、コーチングについて、知っているかどうかを参加者に聞かれ、知らない方々にコーチングとは、対話を通じて相手の思考や行動を引き出し、自発的な成長や目標達成をサポートするコミュニケーションの技法であることを話されました。その後、実際にコーチングを経験してほしいと隣同士で互いに聞き役と話し役に分かれて、決して相手の言うことを否定せず、うんうんと常に承認することの大切さを教えていただきました。

最後に、真美ケ丘中学校の中村先生から、「通級指導での子どもや保護者との関わり」について、6月に真美ケ丘中学校で実施した「魔法のキャラバン」の紹介とある生徒と関わる中で、その子の特性と子どもの困りごとを理解した上で、眼鏡をかけてのビジョントレーニングや達成できる学習計画を立てる練習をしたり、得意なことを伸ばしたりすることで、笑顔が増え、自分から積極的に話せるようになった事例を話してもらいました。

また、吉村町長も公務のあと、この会に参加され、あいさつの中で子どもの未来を担う教育について、熱く語っていただきました。その後、オモロー授業発表会全国実行委員長で公立高校教諭の坊先生が司会をされ、主催者代表の梅田さん、広陵中学校の森本校長と私の3人でのトークセッションとなりました。はじめに5人の実践報告の感想を聞かれ、それぞれが感じた熱い想いを語るとともに、公教育の希望と保護者、地域の人々、教員が立場を超えてつながり、子どもの幸せと笑顔を願うこのような取組が大切だという話になりました。続いて、わっかトークとなり、参加された150人ほどが数人ずつのグループの輪になり、実践報告やトークセッションで感じたことやこれからの教育についての意見交流がありました。最後に兵庫県から参加の小学生オモローの入江爽太さんの「『だっこ』は世界を救う」の講演がありました。私はこの発表会に参加して、公教育の大切さを見直すとともに、オモロー授業に携わっていただいている先生方の子どもの幸せと笑顔を願う想いと新しい教育を地域の人々とのつながりで創っていこうとされている情熱を強く感じました。

裏面へ

教育委員会の取組

第2回広陵町教育の日を開催しました!

9月17日(水)の午後から、2回目となる「広陵町教育の日」として、公開授業を中心とした町の指定研究会を広陵西小学校で開催しました。私は、いつも言っていることですが、「教師の仕事の第一義は授業だ」と思っています。「教師は授業で勝負する」ということがよく言われてます。今回、西小学校の先生方には、1学年から4学年までと特別支援学級の公開授業をしていただきました。

この日は、幼保小の連携を進めている「架け橋推進委員」の先生方をはじめ、保育園・幼稚園・こども園からも17名の先生方、小中学校合わせて168名の先生方、そして教育委員3名を含む事務局11名の参加がありました。受付では、昨年も参観者にお渡しした「授業参観の7つのポイント」を渡し、参観の参考にしてもらいました。

公開授業は午後2時から始まり、中尾校長先生の案内で1年生の授業から順に参観させていただきました。それぞれの教室や廊下には20~30人の先生方が熱心に授業を参観されていました。

1年生は、図画工作科の「はこでつくったよ」で、めあては、「くふうをしてじぶんのあらわしたいものをつくろう」でした。2年生は、算数科の「三角形と四角形」で、めあては「できた形のなかま分けのしかたを考えよう」でした。3年生は、算数科の「長さ」で、めあては「さまざまな道のりやきょりをもとめよう」でした。4年生は、外国語活動の「What time is it?」で、めあては「(　)に気をつけて、好きな時刻と理由を伝え合おう!」でした。特別支援学級は算数科の「ボウリングゲームをしよう」で、個人それぞれのめあてとして、ボウリングゲームで倒れたピンの数を対応する数字に結びつけたり、指をさしながら数えたりすることができるでした。1・2年生の教室には「架け橋推進委員」をはじめ、保育園・幼稚園・こども園の多くの先生方も参観され、授業者の子どもたちへの思考力を引き出す発問や子どもたちの無邪気な返答等、授業者と子どもたちとのやりとりに微笑みもこぼれていました。授業公開された先生方は子どもたちの考えや意見をうまく引き出すとともに、クロムブックの活用やテレビでの資料提示などICTも活用されていました。

授業後は、公開された教室で研究協議が開かれましたが、その前に私のあいさつがあり、各教室のテレビを介してオンラインで、参加された先生方へのお礼とともに、「私は授業参観だけでは、本当の研修にならないと思っています。研究協議に参加することで、授業者の学習内容の工夫やその想いを聴くこと、そして、参観者から見た授業展開等についての想いや改善点など、様々な観点での意見交流をすることで、今後の授業にいきていくものと思っています。」という話をさせていただきました。

その後の研究協議は、はじめに授業をされた先生方が授業に対するねらいや工夫、授業をした後の反省などを話されました。その後、参加者一人一人から授業の感想や授業に対する質疑応答、そして意見交流という形で進みました。

どこの分科会場でも、授業提供をしてもらった先生と参観された先生方との活発で熱心な意見交流がなされ、しかも校種の違う学校・園の先生方がそれぞれの立場で様々な意見交流等がされたことを主催者として本当にうれしく思いました。ある小学校の先生から、「それぞれの先生から意見を聞けて普段聞けないお話もすごくありがたかったです。自分が感じ取れなかった意見(考え方)もたくさんあり、すごく勉強になりました。中学校の先生の意見も聞けて普段聞けないお話もすごくありがたかったです。」というすばらしい感想をいただきました。

学校から　真美ケ丘第一小学校

附属幼稚園と西保育園との合同学習

幼保と小学校とのスムーズな接続に向けて、幼稚園では「アプローチカリキュラム」を、小学校では「スタートカリキュラム」を、架け橋推進委員会を中心に、昨年度までにそれぞれ作成しました。

今年度は、これらを合わせた「架け橋カリキュラム」を、「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」を中心にして、地域との連携も視野に入れながら作成しているところです。また、幼児教育と小学校教育をつなぐ「架け橋推進プログラム」として、今年度新たに真美ケ丘第一小学校の1年生は、附属幼稚園年長園児とともに、広陵西保育園との合同学習を進めています。今回は、西保育園年長園児が運動会で披露するマーチングやリレーの様子を見せてもらいに伺いました。今後、秋の遠足では、町内の竹取公園へ真美一まちづくり協議会の方々の協力をいただいて出かける予定です。

広陵北小学校　広島・姫路への修学旅行！

10月2日・3日、広陵北小学校6年生が広島・姫路方面へ修学旅行に行きました。広島平和記念公園に到着すると、目の前には原爆ドーム。立派だったであろう建物が無残な姿になっているのを目の当たりにし、衝撃を受けました。

平和記念資料館では目を背けたくなるような展示物を見学し、原子爆弾の恐ろしさを痛感しました。最後に「原爆の子の像」の前で平和セレモニーを行い、平和宣言や「青い空は」の合唱、そして全校で折った千羽鶴を奉納し、平和への思いを新たにしました。

また、6年生みんなで泊まったホテルでは、お土産の買い物も良い思い出となりました。二日目は世界遺産の姫路城を見学し、姫路セントラルパークでは楽しい思い出をたくさん作りました。